

ロジスティクス基礎



⑧在庫管理 (Inventory Management)

在庫

1) 在庫とは

製品・商品、半製品、仕掛品、原材料、貯蔵品など、
企業などが所有する有形の資産

- ・ 企業は将来の生産活動や販売活動のために保有している
- ・ 会計上は流動資産の1つであり、**棚卸資産**と呼ぶ
(通常、**1年以内に現金化・費用化できる資産**)

現品としての在庫



棚卸資産としての在庫

資産 (アセット) は、勘定科目の区分の一つ

会社に帰属し、貨幣を尺度とする評価が可能

**将来的に会社に収益をもたらすことが期待
される経済的価値**

資産を活用した中で、収益を得て利益を
生まなければ意味がありません。

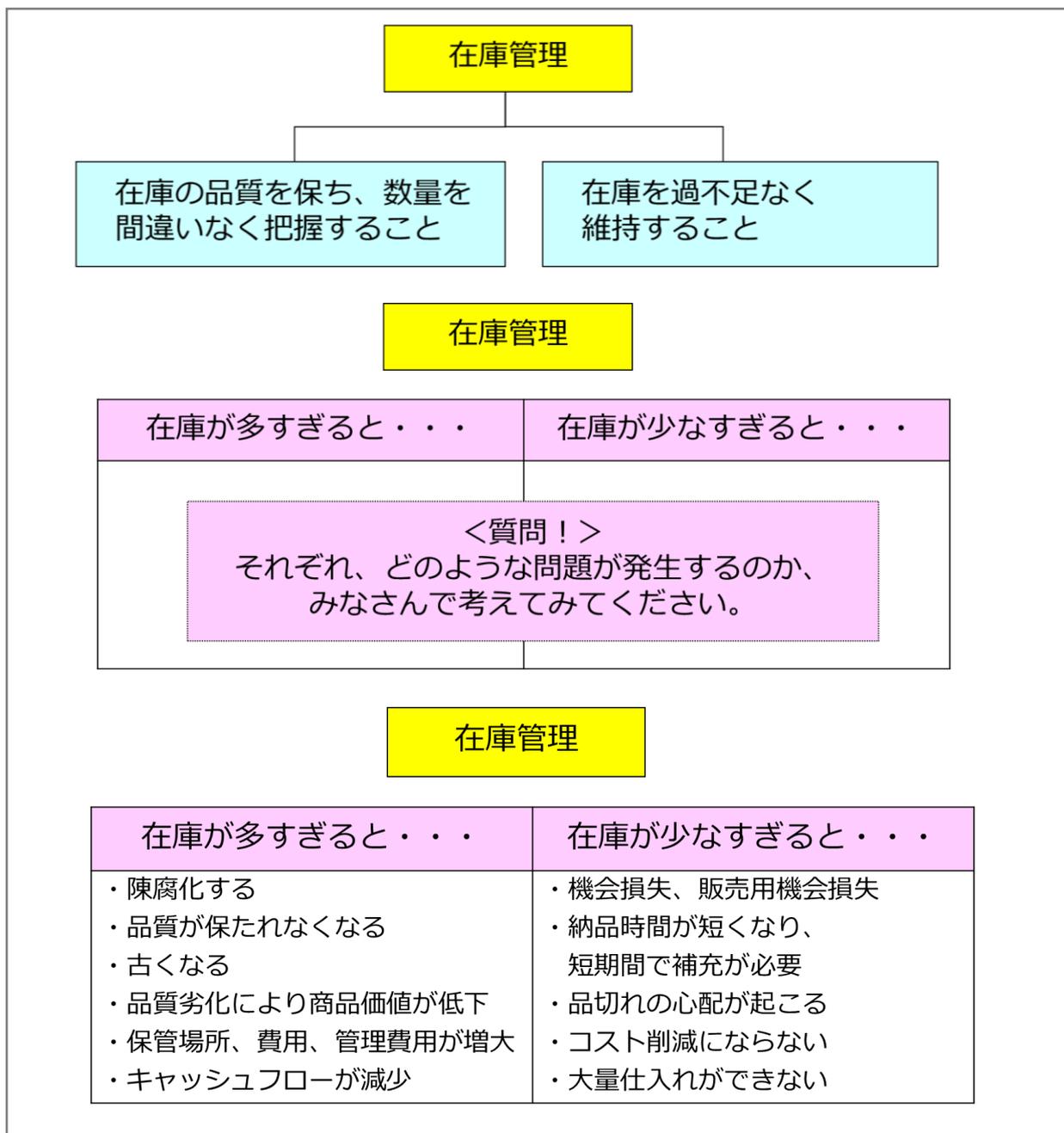
在庫は、会計上は『**棚卸資産**』として扱う

期末に資産額を計算し、決算書
(貸借対照表) に記入する必要がある

⇒ **在庫 = 企業の決算に響くもの**

2) 在庫管理の意味・解釈

在庫管理は、管理者の立場により、意味・解釈が異なる



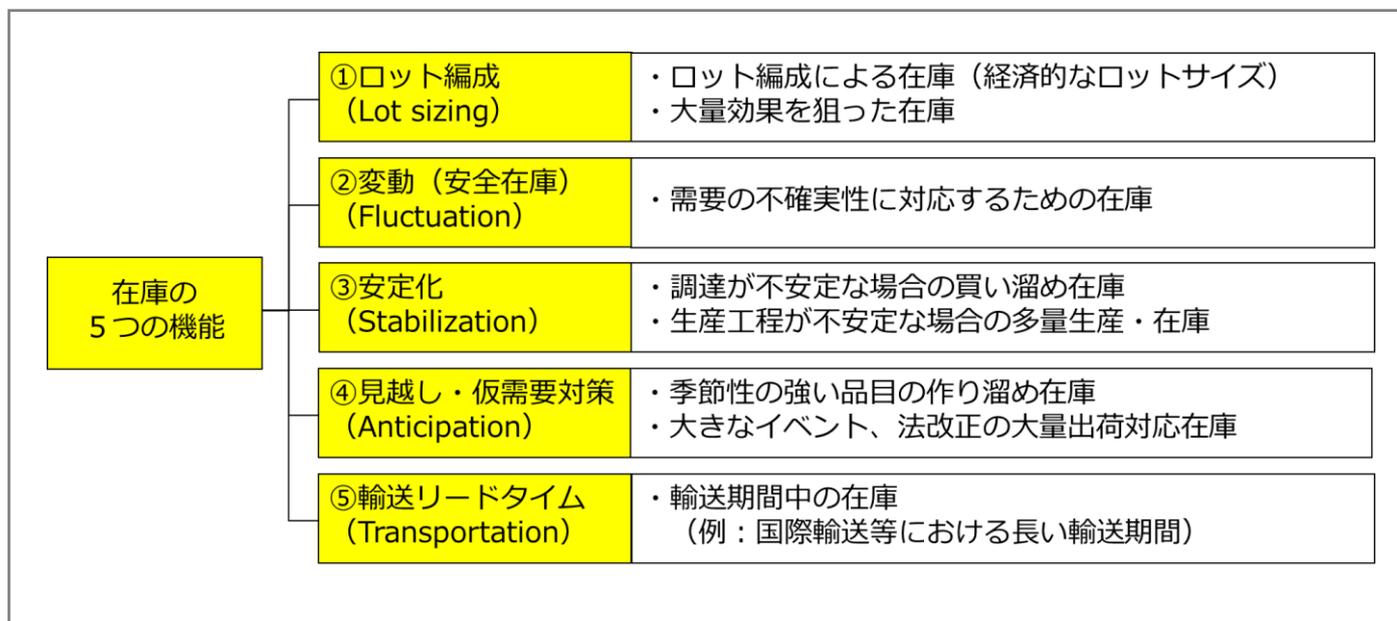
例えば、**在庫が多すぎると**「陳腐化する」、「品質が保たれなくなる」、「古くなる」、「品質劣化による商品価値が低下する」、「保管場所、費用、管理費用が増大する」、「キャッシュフローが減少する」といった課題が残ります。

逆に、**在庫が少なすぎると**「機会損失」、「販売用機会を損失する可能性がある」、「納品時間が短くなり、短期間で補充しなければいけなくなる」、「品切れの心配が起こる」、「コスト削減にならない」、「大量仕入れができない」といった課題が残ります。

在庫の機能

1) 5つの機能（在庫の存在理由）

在庫には5つの機能があり、これらは在庫の存在理由である



一つ目の機能は、**ロット編成**です。ロット編成による在庫、経済的なロットサイズ、大量効果を狙った在庫、つまり、大量仕入れをすることです。

二つ目の機能は、**変動、安全在庫**です。これは、需要の不確実性に対応するための在庫です。需要の見込みが立たない、わからないときのための在庫を持ちます。

三つ目の機能は、**安定化**です。調達が不安定な場合の、買い溜め在庫、生産工程が不安定な場合の多量生産、在庫となります。

四つ目の機能は、**見越し、仮需要対策**です。季節性の強い品目の作り溜め在庫、大きなイベント、法改正の大量出荷対応在庫があてはまります。

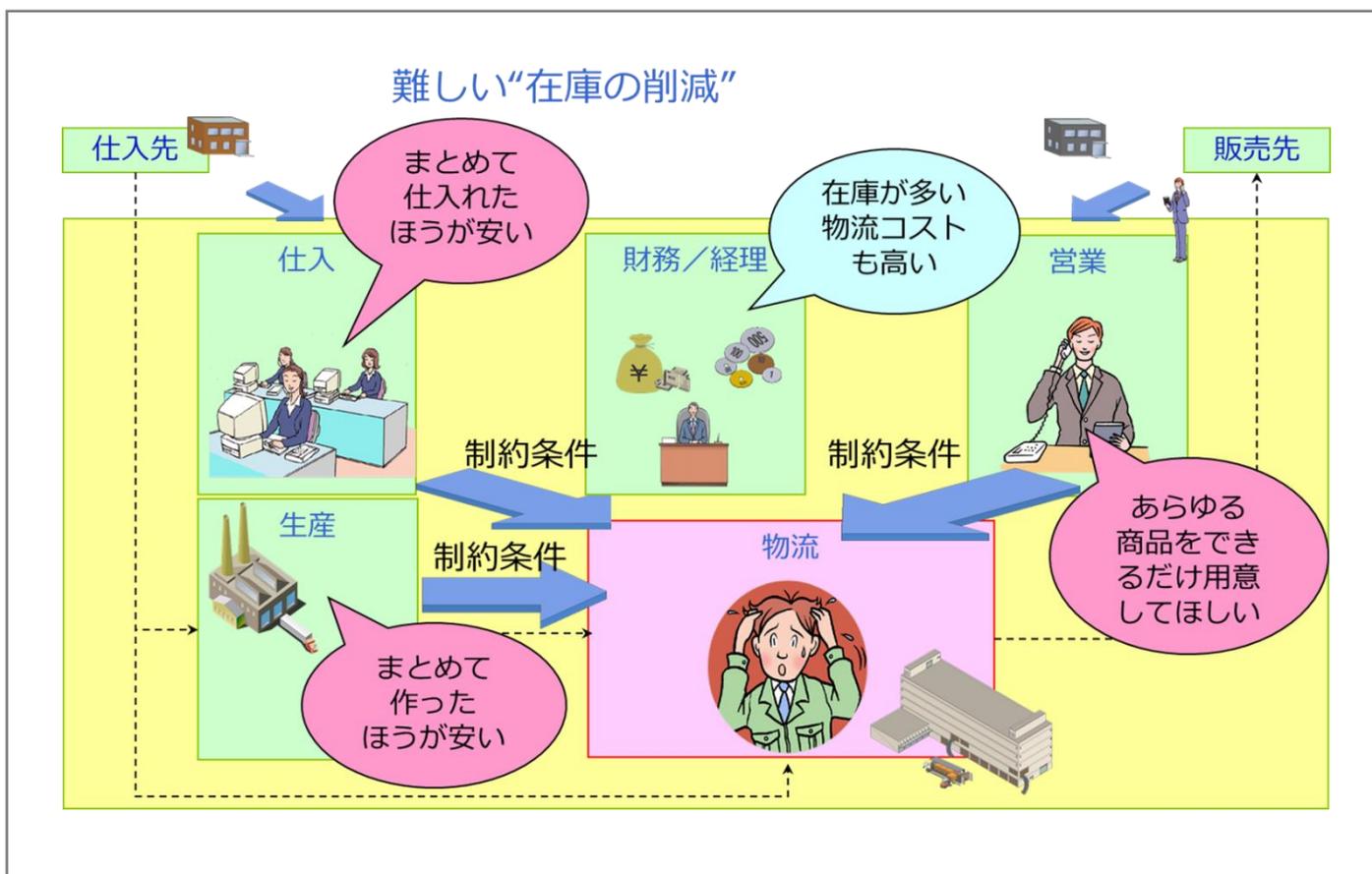
五つ目の機能は、**輸送リードタイム**です。輸送期間中の在庫、国際輸送などにおける長い輸送期間があてはまります。

在庫管理における制約への対応

1) 制約条件

在庫管理における制約への対応を見ていきましょう。

在庫の削減をしようと言われますが意外と難しいものです。



なぜならば、まとめて仕入れた方が安い、（製造においても）まとめて作った方が安い、という制約条件があるからです。

営業担当者からすれば、お客様に迷惑をかけたくないため、あらゆる商品をできるだけ用意したいというニーズや価値観から物流側ではある程度在庫を持たなくてはならないということも発生します。

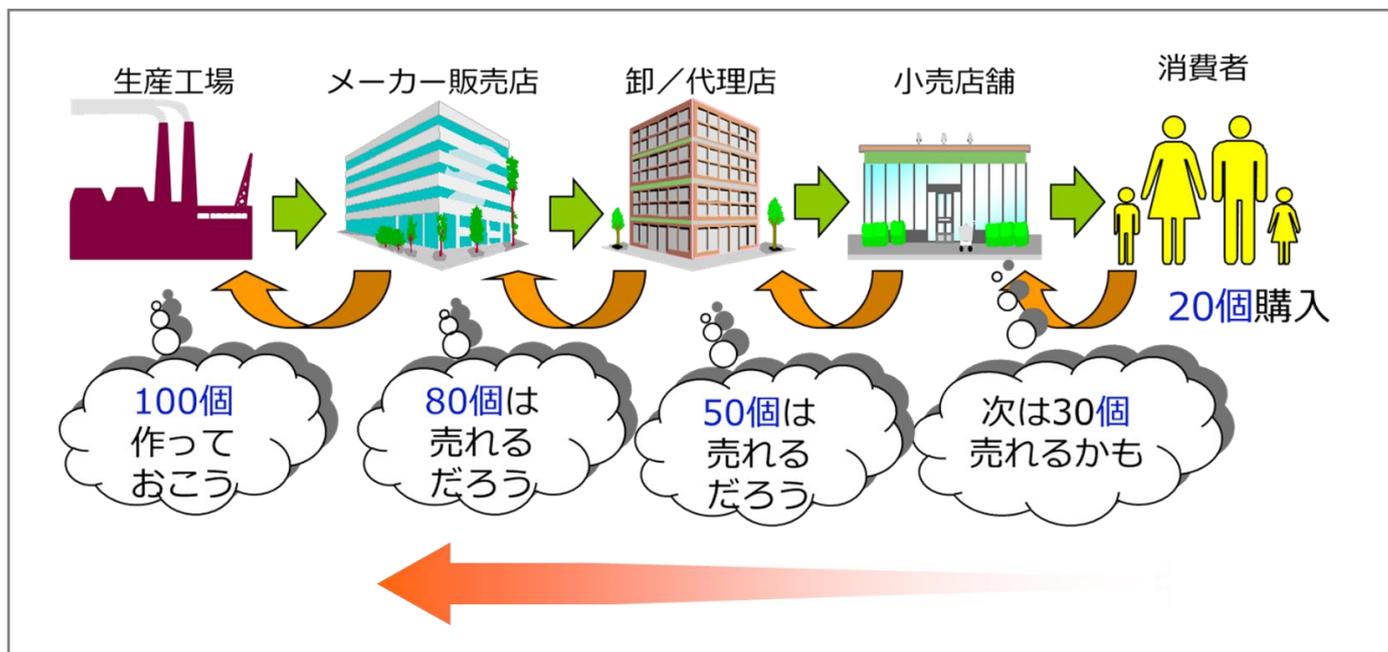
しかし、経理、財務の立場からすると在庫が多い、物流コストも高いということを言わなければなりません。

これらの関係が、在庫削減を難しくしているのです。

企業間関係における問題

1) ブルウィップ効果の概念図

この概念では、川上に行くに従って、それぞれの立場が様々な想定をしていくのです。



実際に**消費者**が20個の物を買ったとします。

小売店舗は、今回20個売れたから、次は30個売れるかもしれないと考えて発注をします。

その上の**卸、代理店**は小売店舗の注文を受けて50個は売れるだろうと想定し発注します。

実際に消費者が購入した2.5倍になっています。

更にそのうえの、**メーカー販売店**は、80個売れるだろうとさらに数量を増やして発注します。

最終的に**生産工場**は、100個作っておこうと考えて生産します。

実際の購入数20個の5倍となるのです。

人間の意識によって、一般に小売店での売れ行きと発注は上流へ行くほど増幅されます（情報劣化の発生）